

はじめに

このシステムは、ファイル名やファイル内のデータに含まれる文字や文を、予め分かち書きで「索引」に登録しておき、入力されたキーワードと照合させてファイルそのものを検索したり、検索したファイルをクリックして実行したりできる「インデックス型サーチエンジン」と呼ばれるものです。

ここで使用する分かち書き辞書は、【KAKASI】[漢字 かな(ローマ字)変換プログラム]の分かち書き辞書を最小構成の語句に改編し、県内の地名等を追記したものです。

本システムは、以下のデータ形式ファイルの検索に対応しています。(対応アプリケーションがサーバ機にインストールされていなくても、検索システムとして利用することが可能です。もちろん、データを閲覧するには、それぞれのデータに対応したアプリケーションが使用するコンピュータごとに必要です。)

データ内のテキスト文が検索可能		ファイル名のテキスト文が検索可能	
拡張子名	対応アプリケーション等	拡張子名	対応アプリケーション等
.csv	CSV 形式	.mdb	Access 95/97/2000/2002/XP
.rtf	リッチテキスト形式	.swf	Macromedia-Flash
.doc	Word ver5.0/95/97/2000/2002/XP	.mpf	MANDARA
.xls	Excel ver5.0/95/97/2000/2002/XP	.mov	QuickTime
.ppt	PowerPoint 97/2000/2002/XP	.jpg /jpeg	静止画
.jaw/JAW	一太郎 ver5	.mpg /mpeg	動画
.jbw/JBW	一太郎 ver6	.mp3	音声
.jfw/JFW	一太郎 ver7	.bmp	画像
.jtd/JTD	一太郎 ver8/9/10/11/12/13/2004	.gif	画像
.txt/TXT	TEXT 形式	.tiff	画像
.html/htm	HTML 形式	.png	画像
.pdf	Adobe PDF 形式	.lzh	圧縮ファイル
.wj2/wj3	Lotus DOS 版	.zip	圧縮ファイル
.wk3/wk4	Lotus WINDOWS 版	.tar.gz	圧縮ファイル

(IANA規格のメディアタイプであれば、Perlを用いてデータフィルタに設定できます。また、gif,tiff,pngの各ファイルは、他のデータに附属して使用されることが多いため、標準ではコメントアウトされています。)

必要なシステム構成は、次の通りです。ご使用になる環境と照らし合わせてください。

後のトラブルを防ぐために、ぜひ再セットアップ、アップデートした状態で作業することをお勧めします。

サーバ機	Pentium以上のCPUを搭載するAT互換機 (Pentium133で動作確認済み)
クライアント機(端末機)	Pentium以上のCPUを搭載するAT互換機、NEC製PC98xxシリーズ機
OS	Microsoft Windows 95 OSR2以降 (Windows 98 SE以上を推奨)
メモリ	32MB以上(64MB以上を推奨 但しMicrosoft Windows XPは128MB以上)
ハードディスク	約45MBを使用 (サーバ機はデータ量に見合うハードディスク容量が必要)
ディスプレイ	解像度800×600ドット以上
その他	校内LANなどのネットワーク環境で、固定IPアドレスが使用できること (Webブラウザを使って、サーバ機単体での使用も可能) USB1.0以上、IEEE1394等以上などの外部接続環境があると、データ更新が容易。 (Windows 98以上のOSでない、USB機器を接続して使用することはできません。)

データの入ったハードディスクを外付けします。

USBのドライバが使用可能であれば、USBプラグを差し込むだけでコンピュータに認識されます。

内蔵されたハードディスクも使用できますが、その場合、自助努力でデータコピーしてください。(10GBのデータコピーする場合、LAN経由の場合は、4~8時間程度を要します。USB1.0の場合は、3~4時間程、USB2.0以上(または、IEEE1394)の場合は、0.5~1時間でコピーできます。)

データの入ったハードディスクのドライブを調べます。マイコンピュータを右クリックして ドライブに入っていることを確認します。以下【 群】の は、このドライブ記号を示します。

*Windows OSは、動的なドライブ構成を許容(ドライブの名称変更、ドライブの追加ができること)しますので、設置後はシステムの構成を極力変更しないでください。(変更する場合は、末尾の トラブルシューティング を参照してください。)

まず、次のファイルをインターネット上でダウンロードするなどして、入手してください。

Win9x(95、98、98SE、Me)系の場合は、インストーラ【InstMsiA】を次の場所から、入手します。

<http://download.microsoft.com/download/WindowsInstaller/Install/2.0/W9XMe/EN-US/InstMsiA.exe>

WinNT(NT、2000・XPは不要)系の場合は、インストーラ【InstMsiW】を次の場所から、入手します。

<http://download.microsoft.com/download/WindowsInstaller/Install/2.0/NT45/EN-US/InstMsiW.exe>

【ActivePerl-5.6.1.635-MSWin32-x86.msi】を次の場所から、入手します。

<http://downloads.activestate.com/ActivePerl/Windows/5.6/ActivePerl-5.6.1.635-MSWin32-x86.msi>

【kakasi-2.3.4.zip】を次の場所から、入手します。

<http://kakasi.namazu.org/win32/kakasi-2.3.4.zip>

【nmz2012.exe】を次の場所から、入手します。

<http://www.namazu.org/win32/nmz2012.exe>

【d2txt108.lzh】を次の場所から、入手します。

http://www31.ocn.ne.jp/~h_ishida/xdoc2txt.html

【httpd142k.zip】を次の場所から、入手します。(httpd142k.exeの自己解凍形式でダウンロードするのが便利です。)

<http://www.st.rim.or.jp/~nakata/>

なお、上記のリンク先アドレスは、平成16年2月現在のものです。(変更される場合が多いので、注意してください。)

次に、設定ツール【sachi.exe】があるかを確認します。ここでは、まだ解凍しないでください。

ここでは、検索システムのプログラムは、Cドライブにインストールするものとして作業を進めます。

インストールの説明で、「【 群】ドライブフォルダの中から」と指定のあるのは、検索されるデータを保存するドライブが ドライブであることを意味します。そのフォルダの中にある設定ファイルを使用して、以後の作業を進めてください。つまり、検索したいデータを保存するのが、Fドライブならば、【F群】フォルダの中から選んだ設定ファイルを、必ず使用してください。

手順を間違えないように本シートを印刷し、チェックしながらインストールしましょう。

(1) 《Win2000,XPの場合は、(1)の作業は必要はありません。(2)から始めてください。》

ActivePealのインストーラ(事前にインストール環境を整えるソフト)をインストールします。

下記のファイルを使用しているOSの合わせて選択します。アイコンをダブルクリックすれば、インストールは完了です。もし、「インストーラは既に存在します」と表示される場合には、インストールの必要はありません。(2)へ進んでください。また、再起動を求めてきた時には、Yes(はい) をクリックして再起動させてください。

*OSが次の場合は、インストールファイルが異なります。注意してください。
Win9x系の場合は、インストーラ【InstMsiA】をインストールしてください。
WinNT系の場合は、インストーラ【InstMsiW】をインストールしてください。

- (2) 【ActivePerl-5.6.1.635-MSWin32-x86.msi】(インタープリタ言語) をインストールします。
【ActivePerl-5.6.1.635-MSWin32-x86】のアイコンをダブルクリックします。 Next をクリックします。
「I accept the...」を選択 (の真ん中をポイントしてクリックすると、・が入ります) します。
Next をクリックします。続いて Browse をクリックします。
インストールドライブが標準では[D:¥Peal...]となっています。
ウィンドウの中の文字を[C:¥Peal...]へ変更 (半角英数字で「D」の文字を削除し、「C」に変える) してください。
OK をクリックし、画面が戻ったら Next をクリックします。
「Enable PPM3 to ...」の前の の中でクリックし、チェックを入れた後、 Next をクリックします。
「Add Peal...」と「Create Peal...」の前の にチェックがあるのを確認後、 Next をクリックします。
さらに、 Install をクリックすると、インストールが開始されます。(約10~20分間程度かかります。)
Finish をクリックすると、リリースノートが表示されます。(読んだら、閉じてください。)
再起動の表示が出ますので、 Yes(はい) をクリックして再起動させてください。
- (3) 【kakasi-2.3.4.zip】(かな 漢字 [ローマ字] プログラム) を解凍します。
【kakasi-2.3.4.zip】のアイコンをクリックし、マウスの左ボタンを押したまま、Lhasaや解凍レンジなどの解凍ツールのアイコンの上に移動させ、左ボタンを離すと、自動的に解凍されます。
作成された【kakasi】フォルダ(分かち書き辞書)を、C:¥~ (Cドライブのルートディレクトリ)へコピーします。具体的には、をポイントし、右クリックして、 コピー をクリックします。
マイコンピュータからCドライブをダブルクリックし、開いたウィンドウの上 (中) で右クリックをし、貼り付け をクリックし、その中に【kakasi】フォルダが作成されれば完了です。
- (4) 【nmz2012.exe】(検索システム本体) をインストールします。
【nmz2012】のアイコンをダブルクリックでインストール画面になります。
解凍先フォルダ名を尋ねてきます。最下部のウィンドウが[C:¥...]となっていることを確認して 解凍をクリックします。もし、違う時は、ウィンドウの中の文字を[C:¥...]へ変更(半角英数字で「D」などを「C」に変えるだけ)してください。
黒いDOS画面が表示されてセットアップするかを尋ねてきますので、「Y」キーを押し、続けてリターンキーを押してください。
黒いDOS画面で [Peal]のモジュールをインストールするかを尋ねてきますので、「Y」キーを押し、続けてリターンキーを押してください。(PPMパッチファイルの生成に移ります。)
[readme]ファイルが表示されます。読んだら、ウィンドウを閉じてください。
- (5) ダウンロードした【d2txt108.lzh】を (3) と同様な方法で解凍します。
デスクトップ上に作成された【d2txt108】フォルダの中の【xdoc2txt.exe】ファイルの上でポイントした後、右クリックし、表示される コピー をクリックします。
C:¥namazu¥binフォルダへいくには、デスクトップの [マイコンピュータ] アイコンから [ローカルディスク] (C:)と記されたアイコン(この形はハードディスクを示します)をダブルクリックし、表示されるフォルダの中から、[namazu] のフォルダの上でダブルクリックします。]

表示されるフォルダの中から、[bin] フォルダの上でダブルクリックします。そこがC:\namazu\bin内です。そのウィンドウの中で、右クリックし、貼り付け をクリックすると、【xdoc2txt.exe】ファイルが表示されて、完了です。

同様に、【zlib.dll】ファイルもコピーします。(これで、PDFファイル形式の文書を検索できます。)

- (6) 設定ツールの【sachi.exe】をデスクトップにコピーし、ダブルクリックします。自動的に解凍され、必要なファイルや設定がインストールされます。(Win9x系は、終了後に画面を閉じてください。)

デスクトップ上に作成された【setup】フォルダの中から【 】 づきで示した名前のフォルダやファイルを使用しますので、ダブルクリックして開いたままにしておきます。

【setup】フォルダを開き、【dataA】フォルダと【indexA】フォルダを、ご使用になるハードディスクドライブのルートディレクトリへコピーします。例えば、Dドライブならば、[D:*~] にコピーします。以後、このドライブ名のついた【 群】フォルダの中のファイルを使用することを、しっかり意識して作業を進めてください。

- (7) Webサーバソフト【httpd142k.zip】を (3) と同様な方法で解凍します。

ここでは解凍後に作成された【httpd142k】フォルダ名のまま使用します。添付ファイルの【httpd142k】フォルダをC:\以下にコピーすると、「既にhttpd142kフォルダが存在します。...」と聞いてきますので、<すべて上書き(A)> ボタンをクリックしてください。

【httpd142k】フォルダをダブルクリックして開くと、黄色のアイコンの【httpd.exe】がありますので、ダブルクリックすると、インストールされます。必要に応じて[readme]ファイルを読んでください。

タスクバー(デスクトップ右下、角のウィンドウ)に表示された、黄色のアイコンを右クリックすると、メニューバーが表示されますので、その中から「オプション一般(G)」をクリックします。

「オプション一般」のダイアログボックスが開くと、[一般]のタブが最前面に表示されています。

「ドキュメントルート」のウィンドウ内にカーソルを置き、半角英数字で「D:\dataA」と記します。(但し、すべて半角で記し、「D」「A」は大文字であることを、よく確認してください。)

「ポート」と記されたウィンドウ内にカーソルを置き、半角数字で「80」と記します。

「デフォルトインデックス」と記されたウィンドウ内にカーソルを置き、半角英字で「sachi.html」と記します。

[アクセス制御]のタブをクリックし、左下の「最大数」と記されたウィンドウの数字を、使用するネットワーク上のコンピュータ台数に{例えば、10台なら「10」}します。なお、この数は、同一ファイルへのアクセス制限数です。単に数値のみを大きくすると、ネットワーク上でコリジョン(ネットワークの通信が混雑して停止状態になること)が発生し、接続できないこともありますので、後ほど実際に運用しながら再調整してください。設定を終えたら、<適用(A)> をクリックします。

Win9x系の場合は、サーバが自動起動する構成にしました。万一、自動起動しない場合は、C:\httpd142kフォルダ内の【httpd.exe】ファイルをポイントし、右クリックして コピー をクリックします。次に、プログラムメニューから、[スタートアップ] をポイントし、右クリックして表示される<貼り付け> をクリックします。

Win2000,XPの場合は、「サービス」のタブをクリックし、「サービス」と記された の中をクリックした後 OK ボタンをクリックすると、サービスを開始するメッセージが表示され、以後は自動的に起動します。自動起動しない場合は、 のWin9x系の場合と同様に対処してください。

そのほか、ログインパスワードの設定、接続の拒否などもできますが、詳細は[AN HTTPD]の[readme]ファイルを、ご参照ください。

すべて<適用(A)> をクリックし、 OK をクリックした後、Windowsを再起動させます。

再起動したときに、右下のタスクバーに黄色のアイコンが表示されていれば、自動的に起動しています。

- (8) 設定ファイルを次のように、指定フォルダへコピーします。((5) と同じようなコピー作業です。)
 デスクトップ上に作成されている【setup】フォルダ内の【 群】フォルダをダブルクリックして開き、
 【.namazu.rc】ファイルをC:\%httpd142k%cgi-binフォルダ内へコピーします。

搭載されているメモリの大きさがWin9x系やWinNT、Win2000で64MB上、WinXPで128MB以上ならば、既に自動的に以下の処理がなされています。この作業は、メモリが32MB以下の場合や大容量のメモリを十分に活用したい場合にのみに限って実施してください。

具体的には、【setup】フォルダ内の【NO. ~】の付いたフォルダから、使用環境に合わせた【mknmzrc】ファイルを選んで、C:\%namazu%etc\%namazuフォルダ内に、上書きコピーします。

使用のOS	Win9X, WinNT, Win2000			WinXP	
搭載メモリ容量	32MB	64 ~ 96MB	128MB以上	128MB	256MB以上
使用するファイル	NO.1フォルダ	NO.2フォルダ	NO.3フォルダ	NO.2フォルダ	NO.3フォルダ
利用可能なファイルサイズの上限	2MB ~ 10MB まで	10MB ~ 30MB (作業は不要)	30MB ~ 50MB まで	10M ~ 30MB (作業は不要)	30MB ~ 50MB まで

上記のファイルサイズの上限を超える場合は、インデックス化の時に無視され、検索はできません。常時起動しているソフトなどによる負荷を考えて、利用可能なファイルサイズに幅を持たせています。

また、【mknmzrc】ファイルをEUC対応エディタで開き、独自の設定することも可能ですが、システムリソースが不足し、動作が不安定になりやすいことに注意してください。

- (9) インデックス化をタスク処理で自動実行できるように設定します。(Win2000, XPの場合は 以降を参照)

デスクトップ上に作成されている【setup】フォルダ内の【 群】フォルダからWin9X系用フォルダをダブルクリックし、その中の【mknmz.job】をC:\%WINDOWS%\Tasks (OEMのWindowsには全角カタカナで「タスク」の場合あり)へフォルダ内にコピーします。WINDOWSフォルダは開く際に、左の中ほどに青い文字で表示される「ファイルの表示」をクリックしないと、フォルダを開くことができませんので注意してください。

コピーした【mknmz.job】ファイルを右クリックし、<プロパティ>ボタンをクリックします。

その中の「スケジュール」タブをクリックし、タスクのスケジュールと記された、下のウィンドウの右端の をクリックして、「日単位」「週単位」などの中からインデックス化をする頻度を決定してクリックします。通常は、「1回のみ」でよいでしょう。また、職場などのファイルサーバとして利用する場合は、「日単位」などを選択してクリックします。

その右にある開始時間は、お昼休み等で使用されない「12:00」ぐらいに設定しておくといよいでしょう。

<適用(A)>に続き、<OK>ボタンをクリックすると、設定終了です。

データファイル内を照合して、破損データを回避するインデックス方法をとっていますので、1GBのデータの場合、およそ1~2時間を要します。(USB1.0等で外部ハードディスクを設置している場合は、さらに数倍の時間を要します。)

ここで、インデックス化を開始するかを慎重に判断してください。(すべての設定を終えてからでも遅くありません。)
 【mknmz.job】ファイルを右クリックし、<タスクの実行>ボタンをクリックすると、黒いコマンド画面が表れ、インデックス化が開始されます。

Win2000, XPの場合は、【setup】フォルダ内の【 群】フォルダから【Win2000・XP用】のフォルダを開き、その中の【mknmz.job】を使用して、 ~ と同様の作業で設定します。但し、「C:\%WINDOWS%\Tasksフォルダ内にコピー」のところを「C:\%WINNT%\Tasksフォルダ内にコピー」に読み替えて作業してください。

しかし、パスワードの設定が必要となる場合は、添付のファイルを使用して設定することはできません。以下の記述を参照しながら、タスクファイルを作成してください。

* タスクで「実行するファイル名」の記述例

```
C:\namazu\bin\mknmz.bat --all --deny="sachi.html|index*.html" --no-encode-uri --output="D:\indexA" "D:\dataA"
```

なお、記述中の"D:¥indexA" "D:¥dataA"のドライブ名は、使用環境に合わせて変更してください。

さらに、WinNTで使用される場合には、ATコマンドによる設定で対応してください。

タスクスケジューラのショートカットをデスクトップ上に作成します。【mknmz.job】ファイル自体のショートカットは作成できませんので、C:¥WINDOWS¥Tasks(「タスク」の場合あり。Win2000・XPはC:¥WINNT¥Tasks)フォルダへのショートカットを作ります。の時のようにC:¥WINDOWSを開いて、その中の[Tasks(「タスク」の場合あり)]フォルダを右クリックし、デスクトップ上へとドラッグします。メニューから<ショートカットをここに作成(S)>を選び、クリックすると作成されます。

以後、設定時間以外にインデックス化を実行したい場合は、このショートカットを開いて【mknmz.job】ファイルを右クリックし、メニューから<タスクの実行(U)>を選んで、クリックして実行させます。

インストールしたコンピュータ(以下、サーバ機と呼称します。)のネットワーク環境を設定します。

ネットワーク環境を調べ、本コンピュータのTCP/IPプロトコルの固定アドレスを設定します。

もし、ネットワーク(校内LANなど)が構成されていないときは、 から始めてください。

ネットワーク(校内LANなど)が稼働しているコンピュータの[マイネットワーク](Win9x系の場合は、[ネットワークコンピュータ])アイコンを右クリック(Win2000,XPの場合は、さらに[ローカルエリア接続]を右クリック)して、プロパティを表示させ、[TCP/IPプロトコル]をクリックしてから、表示されるプロパティをクリックします。

表示されたIPアドレス(4つの組数字)、サブネットマスク(4つの組数字)をメモして、キャンセル をクリックします。(記されていない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。勝手に行うと問題を生じます。通常、DHCPサーバで管理されている場合は、固定IPアドレスの取得が必要です。)

ネットワーク管理者に、固定IPアドレスを使用する許可を得ます。外部とLAN接続していない場合は、サーバ機に使用した固定IPアドレスが、担当者間で分かるように報告、公示してから使用します。

Win9x系の場合は、デスクトップ画面の左下の スタート をクリック、設定(S)、コントロールパネル の順でポイントし、コントロールパネル をクリックします。ネットワーク をダブルクリックし、ウィンドウの中の[TCP/IPプロトコル (アダプタメーカー名が続く)]をクリックしてから、プロパティをクリックします。

Win2000,XPの場合は、 スタート をクリック、設定(S)、コントロールパネル の順でポイントし、コントロールパネル をクリックします。ネットワークとダイヤルアップ接続 をダブルクリックし、表示される ローカルエリア接続 をダブルクリックし、ウィンドウの中の[TCP/IPプロトコル (アダプタメーカー名が続く)]をクリックしてから、プロパティをクリックします。

[次のIPアドレスを使う]の前の (ラジオボタン)の中をクリックして「・」を入れ、 で決定した固定IPアドレス(4つの組数字)、サブネットマスク(4つの組数字)を記します。校内LANが構成されていない時(ケーブルが他のネットワークに物理的に接続していない等)は、[192.168.1.2][255.255.255.0]などと入力します。

Win2000,XPの場合は、この作業は必要はありません。Win9xの場合は、識別情報のタブをクリックして、[コンピュータ名][ワークグループ]の設定は、既定のままで問題なく動作します。万一、記されていない場合には、[コンピュータ名]に「serverG」、[ワークグループ]に「workgroup」などと記します。

すべて OK をクリックすると、再起動を求めてきますので はい(Y) をクリックします。

サーバ機(本コンピュータ)のブラウザ(ここではインターネットエクスプローラ)を設定します。

インターネットエクスプローラのアイコンを右クリックし、プロパティを開きます。全般タブをクリックし、ホームページとして使用するアドレスウィンドウの文字を削除して[http://localhost]と書き換え

ます。

接続タブをクリックし、LANの設定 を押して、ローカルエリアネットワークの設定画面を表示させます。[プロキシサーバーを使用する]の前の の中でクリックして、チェックが入っているかを確認します。(LANでインターネットが使用可能ならば、既にチェックが入っています。もし、入っていない場合は、半角で左のウィンドウ(アドレス)に「ne.jp」、右のウィンドウ(ポート)に「8080」に記します。)

[ローカルローカルアドレスには、プロキシサーバーを使用しない]の前の の中でクリックし、チェックが入ったかを確認します。

詳細 をクリックし、[例外]と表示されたウィンドウの中でクリックして、本コンピュータのIPアドレス(で用いた4つの組数字)を、最後にピリオドを打たないように注意して入力します。また、既に記入がある場合には、セミコロン「;」を入力してから、本コンピュータのIPアドレスを記します。

すべて OK をクリックして終了させます。

クライアント機(本サーバ機の端末として使うコンピュータ)のネットワーク(校内LANなど)が設定されていない場合、次の作業が必要となります。

Win9x系の場合は、デスクトップ画面の左下の スタート をクリック、設定(S)、コントロールパネル の順でポイントし、コントロールパネル をクリックします。ネットワーク をダブルクリックし、ウィンドウの中の[TCP/IPプロトコル (アダプタメーカー名が続く)]をクリックしてから、プロパティ をクリックします。

Win2000,XPの場合は、スタート をクリック、設定(S)、コントロールパネル の順でポイントし、コントロールパネル をクリックします。ネットワークとダイヤルアップ接続 をダブルクリックし、さらに表示される ローカルエリア接続 をダブルクリックし、ウィンドウの中の[TCP/IPプロトコル (アダプタメーカー名が続く)]をクリックしてから、プロパティをクリックします。

[IPアドレスを指定]の前の の中をクリックして、 のグループのIPアドレス、サブネットマスクに準じて記入します。例えば1台目は[192.168.1.11][255.255.255.0]などと入力します。その際にサーバ機と同一のIPアドレスは使用できません。2台目以降は[192.168.1.12]と4つ目の数字を変えていきます。

Win9x系の場合は、識別情報タブをクリックすると表れる[コンピュータ名][ワークグループ]の設定は、既定のままで問題なく動作します。万一、記されていない場合には、[コンピュータ名]に「pc1」、(2台目以降は、「pc2」「pc3」...のように変えます)[ワークグループ]に「workgroup」(2台目以降もすべて同じ名称)などと記します。

すべて OK をクリックすると、再起動を求めてきますので はい(Y) をクリックします。

クライアント機のブラウザ(インターネットエクスプローラ)を設定します。なお、DHCPサーバで管理されるイントラネット内では、この作業は必要ありません。 から、作業を続行してください。

インターネットエクスプローラのアイコンを右クリックし、プロパティ をクリックします。接続タブ をクリックし、LANの設定 をクリックして、ローカルエリアネットワークの設定画面を表示させます。

[プロキシサーバーを使用する]の前の の中でクリックします。(LANでインターネットが使用可能ならば、既にチェックが入っています。もし、入っていない場合はネットワーク管理者に相談してください。)

[ローカルローカルアドレスには、プロキシサーバーを使用しない]の前の の中でクリックします。

詳細 をクリックし、「例外」と表示されたウィンドウの中でクリックして、サーバ機(プログラムをインストールしたコンピュータ)のIPアドレス(で用いた4つの組数字)を記します。

すべて OK をクリックして終了させます。

クライアント機のブラウザを開いて、サーバ機へのリンク(1回の作業で開くボタン)を設定します。

インターネットエクスプローラをダブルクリックします。(もし、他のメッセージが出て、開けない場合は、添付ファイルの中のHTML(青いeマークの付いた)ファイルをダブルクリックしてください。)

アドレス(D)と記されたウィンドウ内に [http://(IPアドレスの4組の数字を半角で、間にはピリオドで区切る。)/sachi.html]と記します。サーバ機のIPアドレスが「192.168.1.2」の場合は「http://192.168.1.2/sachi.html」となります。

G-TaK.NETのトップ画面が表示されたら、[お気に入り] をクリック、続いて お気に入りに追加 をクリックして、使う人の覚えやすい、すべてに共通した登録名を付け、OK をクリックします。必要に応じて、デスクトップに専用のショートカットアイコンを作成しておくのも、よいでしょう。

以上で、すべての作業が完了です。

このあと、ハードディスクドライブの【dataA】フォルダに、コンテンツデータをコピーします。

そして、タスクスケジューラへのショートカットを開き、【mknmz.job】ファイルを実行します。

すべてのクライアント機から、検索システムのメインメニューが表示されるかを確認してください。

デスクトップにある【setup】フォルダは、再インストールの際に必要なこともあります。

気になるようなら、×印をクリックして閉じてください。

運用を開始したら、「運用の手引き」を読み、必要に応じてメンテナンスを実施してください。

アンインストールの方法について

まず、サーバソフトが稼働中の場合は、停止させます。デスクトップ画面の右下のタスクバーに表示された黄色のHTTPアイコンをポイントし、右クリックするとメニューが表示されます。一番下の「終了(X)」をクリックすると停止します。

次に、Cドライブを開いて、【htp142k】フォルダ、【kakasi】フォルダ、【namazu】フォルダを削除します。効率的に削除するには、[Ctrl]キーを押しながら、3つのフォルダのアイコンをクリックした後、右クリックすると、メニューが表示されますので、下から3番目あたりの「削除(D)」をクリックすると、「削除してよいか」と聞いてきますので、「はい(Y)」をクリックすると、ごみ箱に入ります。

デスクトップ画面の左下の「スタート」をクリックすると表示される「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。表示されたウィンドウの中に、「regedit.exe」と半角英字で入力し、<OK>ボタンをクリックします。

レジストリエディタが起動します。左の階層で表された図中の「HKEY_LOCAL_MACHINE」のフォルダマークの前の「+」マークをクリックすると、下の階層のフォルダが現れます。

「SOFTWARE」のフォルダマークの前の「+」マークをクリックすると、下の階層のフォルダが現れます。その中の「AnHttpd」のフォルダマークをクリックすると、反転表示になります。そのまま、さらに右クリックし、表示されたメニューの「削除(D)」をクリックします。「このキーを削除してよろしいですか」と聞いてきますので、「はい(Y)」をクリックすると、「AnHttpd」のフォルダマークが消え、削除されます。

【ActivePerl】の削除については、デスクトップ画面の左下の「スタート」をクリックすると表示される「設定(S)」をクリックし、右側に現れたメニューの中から「コントロールパネル(C)」をクリックすると、ウィンドウが開きます。

そのウィンドウの中の「アプリケーションの追加と削除」のアイコンをダブルクリックし、表示された「現在インストールされているプログラム」の中から、「ActivePerl5.6.1...」の上をクリックします。

反転表示された二つのボタンのうち、右側の「削除(R)」をクリックすると、「ActivePerl...を削除しますか?」と聞いてきますので、「はい(Y)」のボタンをクリックすると、削除が自動的に開始されます。

【群】ドライブにデータが残っていますので、そのドライブのルートディレクトリを開き、【dataA】フォルダと【indexA】フォルダを、と同様な方法で削除します。

「タスクスケジューラ」のショートカットをクリックして開き、【mknmz.job】ファイルを削除します。

Win9x 系の場合は、デスクトップ画面の左下の<スタート>をクリックすると、表示されるメニューから<プログラム>、<スタートアップ>の順でポイントします。表示された<http.exe 起動>を右クリックし、表示されるメニューから<削除(D)>をクリックして、サーバソフトの自動起動を解除します。

最後にデスクトップ上にある【setup】フォルダと【Sachi.exe】ファイル、「辞書追加修正ツール」「全文検索スタート」「タスクスケジューラ」へのショートカットを同様に削除します。

ごみ箱を空にして再起動すれば、導入により増えたフォルダやファイルは、何一つありません。

トラブルシューティング

(1)サーバ機が動作しない場合

《ケース1》起動しても「ページを表示できません」の画面になる。 対策 LANケーブルをチェック
「 http:// . . . /sachi.html 」で接続しても画面にキーワード検索システムのメインメニューが表れない時は、(3)の項目を参考にしてLAN接続を確認してください。

《ケース2》サーバが、自動起動しない。 対策 スタートアップに登録します。

Win2000,XPの場合は、[AN HTTPD]サーバソフトは自動起動の設定になっていますが、もし設定を変更して自動起動しなくなった場合は、(7)のようにスタートアップに【httpd.exe】のショートカットを登録しますと、コンピュータの起動に合わせて、サーバソフトが自動的に稼働します。

《ケース3》その他 対策 本来のデータドライブ場所と【 群】フォルダから選んだファイルが一致していないことに起因するトラブルによるものがほとんどです。

X(2)に基づいて、正しい設定ファイルを上書きコピーします。原因は、作業の手順ミスか、導入後に新たにリムーバルディスクなどのドライブが追加されたことによることが考えられます。

(2)サーバ機のデータドライブの場所が変更された場合

ドライブ構成を変更した場合、G-TaKデータがあるハードディスクドライブが、ドライブになっているかを確認してください。

もし、ドライブならば【setup】フォルダ内の【 群】のフォルダの中の【.namazu.rc】をC:%httpd142k%cgi-binフォルダ内へ 上書きコピーします。

次に、タスクバー（デスクトップ右下、角のウィンドウ）に表示された、黄色のアイコンを右クリックすると、メニューバーが表示されますので、その中から「オプション一般(G)」をクリックします。

「オプション/一般」のダイアログボックスが開くと、[一般]のタブが最前面に表示されています。

「ドキュメントルート」のウィンドウ内の記述のうち、「 :%dataA」の部分が、変更されたデータドライブ名に書き換えます。

(9)を参照して【 群】フォルダ内の該当OSのフォルダから【mknmz.job】ファイルを、同様に上書きコピーします。

再起動させて、検索できるかを確認します。

(3)クライアント機のブラウザが動作しない場合

の作業をして、[TCP/IPのプロパティ]を表示させ、IPアドレスに[192.168.1.]、サブネットマスクに[255.255.255.0]などと設定されているかを確認します。なお、ネットワーク(校内LAN)にDHCPサーバシステムを用いている場合は、IPアドレスを自動的に取得(空欄のまま)で問題ありません。

デスクトップ画面から スタート をクリック、 プログラム をポイントすると右側に表示される M S-DOSプロンプト (Win2000,XPは コマンドプロンプト)をダブルクリックします。表れた黒いウィンドウの中の [C:%WINDOWS >]に続いて、「ping 192.168.1.2」などとサーバ機のアドレスを入力し、LANが接続されているかを確認します。返される応答のうち、一つでも「Request timed out.」の表示があれば、LANケーブルが物理的に接続していない可能性があります。配線をたどって点検してください。